

Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context: An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2021-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00063342

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



学 位 論 文 要 旨

Dissertation Abstract

学位請求論文題名 Dissertation Title

Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context:
An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines

(和訳または英訳) Japanese or English Translation

地域生活の文脈において収集者と貢献者により形成される生活用具コレクション: 石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州にみられる収集活動と収集されたモノの機能についての研究

人間社会環境学 専 攻 (Division)

氏 名 (Name) 川邊 咲子

主任指導教員氏名 (Primary Supervisor) 西本 陽一

(注) 学位論文要旨の表紙

Note: This is the cover page of the dissertation abstract.

Abstract

This research investigates how local collections of everyday objects are formed by collectors and contributors in the local living context. It starts with questions learned from the current situation of mingu collections in Japan: how are everyday object collections formed in local communities? Why do everyday object collections fail to maintain their value? Following the concepts of lifecycle and functions of things by Schiffer and employing the hypothesis that collecting is collection-making and place-making, this research seeks to clarify the mechanism of collecting in terms of interactions among collectors, contributors, and objects in the local living context, as well as the meanings of the collection to the community.

Through the ethnographical survey and analysis of everyday object collections in the Noto peninsula and Ifugao Province, the ways local people contributed to the collection were found to be influenced by their everyday relationships with objects. Through the analysis of place-making, seven kinds of places composed of collected everyday objects were found to have social meanings. Moreover, collecting appeared to be a way where collectors and the community reform relationships with things from the past. These features of collecting are only possible because of the ideo- and socio- functions of these collected everyday objects.

However, the meanings and functions of these collections are so unstable that many local everyday object collections are endangered. Meanwhile, it was found that recovery and discovery of functions of closed museum items occur through cases in Noto, and a new trend of preservation of family heritage was elucidated through cases in Ifugao. Finally, to preserve and utilize local everyday object collections, it is suggested that we need to focus more on collecting data and information on the objects for diverse perspectives of culture and the past.

論文要旨

本研究は、生活用具コレクションが、地域生活の文脈において、コレクションの収集者と貢献者（収集の対象となるものを寄贈、売却、交換などの行為によって収集者の収集行為に寄与した人物）によってどのように形成されるかを明らかにすることを目的とした。研究の背景としては、地域歴史文化資料として収集・保存されながらも、現在その多くが消失の危機に瀕している日本の地域民具コレクションの現状を挙げた。そこから、そもそもそれらの生活用具コレクションは地域においてどのように形成されるのか、そして、なぜ収集され保存されたにもかかわらずその価値を維持できないのか、といった問いから本研究は始まる。

本研究の考察の根幹となる理論として、シファアのモノのライフサイクル論とモノの機能の概念を用いた。さらに、収集行為はコレクションを形成する（コレクション・メイキング）だけでなく、場をつくる行為でもある（プレイス・メイキング）という仮説を掲げ、以下の研究課題を立てた。

1. コレクション・メイキングの背景として、人々は地域コミュニティにおいて古い生活用具とどのような関係性を持つのか。
2. プレイス・メイキングにおいて、集められた生活用具によっていかなる場が作られるのか。
3. 生活用具は、収集のフェーズにおいて、いかなる観念的機能(ideo-function)と社会的機能(socio-function)を持つのか。
4. 生活用具コレクションはなぜ価値を失うのか。

これらの研究課題の答えを見出すことで、本研究は、収集者と貢献者、そして収集対象である使われなくなった生活用具が、地域の実生活の文脈においていかに相互に関わり合いコレクションを生み出すのかといった、収集のメカニズムを明らかにすることを目指した。

研究対象地域としては、石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州を剪定した。第2章では、それぞれの地域の基本情報や文化的特徴について紹介するとともに、各国における生活用具コレクションが生み出されてきた背景について先行研究を参照し論じた。また、現地で調査した生活用具コレクションの基本情報について説明した。

対象とした二つの地域においては、生活用具コレクションに携わる収集者や貢献者、資料館等の管理者などの関係者に対する聞き取り調査と、日常生活におけるモノとの関わり方や収集行為についての参与観察を行なった。第3章では、そうしたフィールドワークにおいて得られた語りやエスノグラフィーを分析し、人々が地域コミュニテ

ィにおいて持つ古い生活用具との関係性を明らかにした。能登では、生活用具は主に古い納屋や蔵に溜め込まれ放置された状態から収集されており、その背景には、人々が、それらのモノとの割り切れない関係からモノを溜め込む傾向にあることが見出された。まるでモノ供養や道具供養と同じように、人々は古いモノとの割り切れない関係を資料館への寄贈という行為により昇華しているのである。イフガオでは、生活用具は、その市場性、再現性、柔軟な所属性の点で流動的であることが示された。イフガオの収集者はこの日常生活における習慣的な流動性をうまく捉えられる者でなければならない。このように、収集は地域の生活の中で行われ、収集者だけの都合でなされるのではなく、地域生活の中で育まれた人々と生活用具の関係性が大きく影響していると言える。

収集者によるプレイス・メイキングの分析からは、収集された生活用具により7種類の場所（文化再興の場、思い出共有の場、趣味・思想の発信の場、学習・研究の場、観光の場、社会的影響力の象徴としての場、古いモノの避難場）が形成され各々が社会的意味を持っていることがわかった。さらに、収集は、こうした場を作るだけでなく、収集者自身や地域全体が過去のモノとの関係を再構築するひとつの方法であると考えられる。収集者や地域社会が少なからず感じている、古き良き時代や文化を変えてしまった、失ってしまったということへの後ろめたさが、昔の生活用具を収集し社会的な場をつくることで軽減されると言える。

これらの分析を受け、第4章では、収集された生活用具の観念的機能と社会的機能について考察を行なった。社会的な場をつくるのが収集された生活用具の社会的機能であるとともに、個人的記憶の想起・伝達、想起の社会的枠組みの供給、コミュニティ・メモリーの具現化が、生活用具の観念的機能であると言える。また、歴史的情報や美的な価値を少なからず保有しているため、収集された生活用具は歴史的情報と審美的価値の伝搬という観念的機能を持っていると言える。生活用具は、収集されるにあたりこれらの観念的機能を持つために、上述の社会的機能を持つのであり、また、生活の変化などによりそれらが失われることに対して危機感を抱くことが収集のきっかけになるという現象も、生活用具がこれらの機能を持つことに起因する。

しかし、これらのコレクションの意味や機能は非常に変動的であり、日本の地域民具コレクションの多くが消失の危機にさらされている。第5章では、主に能登におけるそうした問題の実情を示すとともに、生活用具コレクションがその価値や機能を失う原因として、各収集物についての履歴的情報が収集に伴って記録されていないことを示した。その背景には、生活用具の収集が物理的消失を防ぐことを第一目的として行われてきたこと、収集者は自身が持つ記憶や知識に基づいてコレクションを形成してきたことが要因としてみられる。一方で、地域の実情を見ると、こうした生活用具コレクションの問題解決の糸口となるような事例が見られた。能登では、閉館した資

料館の資料であった農具が再び使われることで技術的・観念的・社会的機能を回復した例が見られた。イフガオでは、資料館等に寄贈するのではなく家族単位で守り伝えられた家財品を受け継いでいくというファミリー・ヘリテージの例が見られた。こうした地域における古いモノとの関係性の再構築、モノの新たな機能の発見は、地域の古いモノ、生活の中の文化財を保存・継承するためには、必ずしも収集行為を前提としないのではないか、という問いを我々に投げかけている。

学位論文審査報告書

令和3年1月28日

1 論文提出者

金沢大学大学院人間社会環境研究科

専攻 人間社会環境学専攻

氏名 川邊咲子

2 学位論文題目（外国語の場合は、和訳を付記すること。）

Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context: An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines
(地域生活の文脈において収集者と貢献者により形成される生活用具コレクション: 石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州にみられる収集活動と収集されたモノの機能についての研究)

3 審査結果

判定 (いずれかに○印) 合格 ・ 不合格

授与学位 (いずれかに○印) 博士 (社会環境学・文学・法学・経済学・学術)

4 学位論文審査委員

委員長	西本 陽一	Ⓔ
委員	河合 望	
委員	中野 涼子	
委員	宇根 義己	
委員	田村 うらら	
委員		

(学位論文審査委員全員の審査により判定した。)

5 論文審査の結果の要旨

本論文は、石川県能登地方とフィリピン・イフガオ州を対象に、使われなくなった日用品を人々がなぜ・どのように収集するか、その収集に収集者と貢献者（寄贈者・売却者など物品提供者）がいかに関わっているか、収集によっていかなる「場所」が作られるのか、収集の過程で日用品のもつ機能はどのように変化するかを、現地調査に基づき、比較研究したものである。その結果、能登とイフガオでは、生活用品収集と「場所」形成において、異なった様相が見られたと著者は述べる。能登地方では、使われなくなった生活用具が捨てられずに納屋や倉庫にため込まれている例が多くみられるが、地域資料館などのローカル・ミュージアムがそれらを引き受ける役割をにない、所有者の罪の意識やノスタルジア感覚を救済している一方、生活用具についてのデータなしに収集されるために、それら生活用具は後代の人々に対して価値を失ってゆくという。イフガオ州では、伝統的な生活用具や工芸品が現在でも生活の中で使用されている例が多くみられたが、民族的なアンティークとして商品価値を有するために売買がされるとともに、イフガオ文化を具体的に象徴するものとして、文化イベントなどで用いられているという。

第一章で著者は、研究の背景、先行研究のレビュー、研究の対象、枠組み、問い、研究方法、研究の目的と意義を示す。日本での生活用品収集状況から喚起される、1. 地域コミュニティで生活用品収集がどのように形成されているか、2. その収集にはどのような人々が関わり、なぜ彼らは収集を行うのか、3. なぜ収集された生活用品はその価値を失ってしまうのか、という研究の問いを提示し、1. モノのライフサイクル、2. 収集におけるモノの機能的な変化、3. 収集による新たな全体の創出、4. 収集の3つのモード、5. 過去と未来への収集による志向という点から先行研究をレビューしたのち、Ingoldの「場所づくり」やHalwachsの集合的記憶を本研究の中心概念として据える。同時に、収集者ばかりでなく、貢献者を視野に入れる点に、本研究の独自性があると述べる。

第二章では、能登とイフガオというふたつの調査地の紹介とそれぞれの場所での生活用品をめぐる歴史社会的な背景が記述される。日本においては、民具ブームからふるさと教育や地域博物館の誕生という背景がある。フィリピンでは、政府による民族および民族教育政策と生活用品をめぐるアンティークビジネスについて記述される。その後、著者が広域的な調査を行った能登とイフガオそれぞれの調査地およびより深く調査を行った二つの地域の調査地が紹介される。

第三章は「収集づくり、場所づくり」(making collections, making places)と題され、広範な観察と聞き取りのデータから、能登とイフガオにおける生活用品収集の実態を記述し、それぞれの代表調査地において、生活用品と人々とがいかなる関係を築いているか、また、いかなる「場所」が形成されているかを検討する、本稿本文の半分を占める大きな章である。

能登の代表調査地では、使わなくなった農具を中心とした生活用品を収集し、大学生の協力も得て、閉校した学校校舎を資料館にして展示している。人々に古い生活道具の価値を伝え、若い世代にその故郷の昔との感情をはぐくんでほしいという目的をもった「場所づくり」であるが、そこには様々な困難もある。

イフガオの代表調査地では、1970～80年代に生活の変化によって、伝統的な生活用具の多くが不要になっていった。そのような状況の中でA（仮名）は、地域を回り、人々から不要になった生活用品を集めて、自宅に置くようになった。Aの収集の主な目的は、イフガオ文化を消滅から守るためであるが、多くの収集品のおかれた彼の家は地方自治体の注目を集めるようになると同時に、国内外からの観光客を見込めるようになってきている。

収集される生活用品と人々との関係について、次に著者は記述している。能登の事例では、かつて農業に従事していた家には、すでに使わなくなった多くの道具が残されているが、感情的な紐帯により、人々はそれらを捨てられずにいる。そこに地域博物館などが古い生活用具の収集を始めると、人々は後ろめたさなく、それらの不要となった生活用具を手放すことができるという。

これに対してイフガオでは、伝統的な生活用具は作られ、売られ、交換され、無料で譲渡されるなど様々な形で収集に加わる。人々の中には、古いものをそのままの状態で保存するという収集という行為を理解していない者もいる。イフガオには、アンティークビジネスが存在するために、人々の中には生活用品を商品と考える人もいるし、なおも使用される生活用品は、生活の中で使用価値を有している。能登における一義的な古い生活用品の位置づけに対して、イフガオには多義的な生活用品の価値づけが見られる。

これらの考察から著者は、生活用品の収集により、7種類の「場所づくり」がなされると主張する。文化を活性化させる場所、過去と過去に対する感情を共有する場所、趣味や好みを発信する場所、研究の場所、観光の場所、社会的ステータスの象徴の場所、古いものを保護する場所である。古いものを変えてしまったという後ろめたさをもつ収集者と地域共同体は、このような「場所づくり」によって、モノとの関係を再構築するのだと著者は主張する。

第4章で著者は、能登とイフガオの事例によって、使用価値のほかに、生活用品がもつ観念的・社会的な価値について論じる。古い生活用品は、人々の個人的な記憶や共同体の記憶と関わり、歴史的な情報を提供し、美的な価値を示すなどの機能がある。そのような古い生活用品に感情的な紐帯を有しているために、それらが失われることを恐れ、収集を行うと著者は主張する。

第5章は、古い生活用品が価値や意味を失う中で、新しい価値や意味の発見がなされていることを、能登とイフガオから報告する。能登については、古い生活用品が新しいやり方で使用されている例が報告される一方で、イフガオでは、古い生活用品が家族遺産という価値をもつ

可能性が報告される。

結論部である第 6 章で著者は、1～5 章の内容を要約するとともに、収集された生活用品が価値を失う理由を、収集がシステムティックでなく収集品についてのデータを欠いているために、使用者の後の世代にとって意味を失っているからだと述べる。しかし同時に、能登でも伊フガオでも、古い生活用品の新しい価値と意味の発見の事例も見られる。このような状況の中で著者は、収集品についてのデータ記録とシステムティックな収集によって、古い生活用品が、新しい世代や地域共同体にとっても価値あるものとなると主張している。

学位論文検討会では審査委員から様々な質問と意見がなされた：

- 1) 一連の収集品の価値を存続させるために、それらに関するより完全なデータ・情報を収集することを提言しているが、それだけで目的が達成されるのかという点には疑問が呈される。世代や環境の変化などを考慮した更なる考察が必要である。
- 2) 集合的記憶と言っても、コミュニティ、地域、国家など単位が異なると、その集合的記憶を管理するための資源や力が異なるので、その点も考慮に入れるべきである。
- 3) 西洋の収集に比べて研究の少ないアジアの収集を研究する目的で、能登と伊フガオが対象地を選んだのなら、西洋とアジアの収集の違いについてよりはっきり記述すべきである。
- 4) 収集づくり、場所づくり、モノのライフサイクル、モノの観念的・社会的価値などの分析概念を事例に当てはめているが、それによって得られる新しい理解が少ない。
- 5) 遺産や記憶に関する先行研究を土台にして本論文は構成されているが、本研究が貢献する専門分野が不明確である。分野を明確にしたうえで、その領域での最先端の研究を活用することが望ましい。
- 6) フィールドワークが表面的であり、現地住民が言ったことを無批判に受け取っている箇所が見られる。

以上のような不足点もあるものの、長い時間をかけて能登と伊フガオの調査地においてそれぞれ数次のフィールドワークを実施し、各地域の収集品のおかれた歴史社会的な背景も考慮に入れながら、収集することに関わる理論的な概念を用いて、各地域で収集がいかにおこなわれ、収集によって形成された「場所」が人々にいかなる意味をもっているかを、著者は堅実に記述している。さらに、これまで収集者のみに焦点を当てた研究がほとんどだった中で、貢献者をも研究対象として、収集を行為としてだけでなく、「場所づくり」として捉えている点は新しい。課題設定、事実の提示、分析、結論と進む本稿は論理的な構成をもち、具体と抽象とのバランスの取れた議論がなされている。

以上を考慮し、審査委員会は本稿が博士学位論文としての水準を満たすと判断し、合格とした。